

2025年7月9日号

じんけんを「他人ごと」から「自分ごと」へ

じんけんゆんだぶる

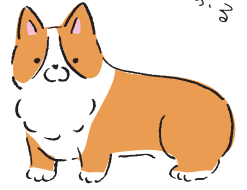
NO
4号



じんけんゆんだぶる

OYAOYA 通信

学びのホームグラウンド じんけん楽習塾



7月9日のじんけん楽習塾は『ジェーン・エリオットの「差別体験・ワークショップ」から学ぶ』がテーマです。講師は富岡美知子さん(異文化コミュニケーション・トレーナー)です。

みんなのふりかえり 4回目6/25

『「部落フェミニズム」を書く、読む、語る』



瀬戸徐映里奈さん
(近畿大学人権問題研究所教員)
坂東希さん
(大阪公立大学教員)
熊本理抄さん
(近畿大学人権問題研究所教員)

「部落フェミニズム」著者の方に、自身のコミュニティや部落差別の経験について執筆した過程を通じて得た自己発見や気づきについて話していただきました。

また、今回たくさん感想が参加者より寄せられましたので、抜粋して掲載させていただきました。ありがとうございました。

<参加者の感想&ふりかえり>

- もう一回、読みます！こんなふうに、触発されて語りにつながっていくのが大切だなと思いました。またぜひ！（ともち）
- 応答しなきゃなあ、と思います。整理できないものは、急いで整理しなくていい、むしろ未整理なまま分かち合いたいです。それは、やはり対面で語る場ですかね…。
- モヤモヤを持ち続け、考え続けていくことで見えてくることがあると希望を持ってました。さまざまな場をたくさん作って、たくさんの方と語りしたいと思います。
- とても悩みながら執筆され、今も悩みながら語っておられるのだということが伝わってきて、私も自分の心の奥のモヤモヤともう少し向

き合ったり、誰かと語る機会を持ちたいと思いました。

●著者の葛藤や思いを聴くことでまだまだ記されていないことも知りたいと思う反面、この本が多く読者のいろんな語りのきっかけになることにエンパワメントを感じました。フェミニズムのことも、インターセクショナルリティについても、もっと、それぞれのモヤモヤを語る場が欲しいと思いました。生きやすい社会のために。

●未整理のもやもや、声にならない語りがあることの意味を考えると本当に深い課題だと感じます。まずは整理されたものを読みたいと思いました。

●勇気やリスクを持って本を書かれたこと、そして今日は語っていただきありがとうございます。自分が人権にはじめてリアルにふれたのは部落差別であり、そこに生きてきた人たちでした。同時に障害者差別、在日韓国人・在日朝鮮人差別もともにでした。ともに過ごした今でも大切な仲間です。想いや語りをたくさん聴かせていただき、自分の中でいろいろな気持ちが現れ混在していました。想いを聴かせていただきながら、先日の沖縄慰霊の日の女性たち、痛みを思い出すのはしんどいことだけど話していきたいと想いを話されていたこととリンクしたところを感じました。言っても言わなくてもいいも大事。わかち合う場、ほんと大切ですね～。(猫が好き)

●日本の「フェミニズム」の全盛初期の頃も、会場の参加者一人ひとりから、自分のことや思いを泣きながら語る場面が随所にあったことを思い返しました。「個人的なことは政治的なこと」「身近な小さなことや違和感こそ、世界と社会構造につながっている」そんなポリシーがフェミニズムの原点のはずなのに、どこで部落女性を不可視化していったのでしょうか？ヘイトが横行する中、どうしたら自分



自身の差別と被差別に向き合い自省し、他者との連帯を進められるのか？ 今一度、深く見詰めなおそうと思いました。(K)

●自分が自分のルーツのことをどう考えているんやろう、と見つめ直す機会になりました。お二人の語りに共感したり、なるほど、そういう思いもあるんだと発見もあったり、突き刺さるものがあったりしました。自分を語ってくださったお二人の想いにふれ、今の自分の立場とつながりの中でできる「わたしの運動」をやっていたらいいよね、ってなんか気持ちが軽くなった自分があります。(清原)

●最後に、「部落差別がなければ、差別を受けることのなかった男性たちによって私たちは部落問題を学んできてしまった」と言語化してくださったことにうなづきまくりました。私もまた真摯に学び、自分の言葉で語っていきたくとつよく思いました。

●ルーツがあることをどう感じているかは当然に人それぞれですが、「とても強い「部落出身」アイデンティティ」がなければ語ってはならないかのような、そんなふうに感じてきました。坂東さんが暮らしてきたなかで「語る」ことやその型があって、それをこなしつつも抱えていた感情がやはりあったのだなど、今回の執筆が「自分の声と出会う作業」だったということが印象に残ったことのひとつでした。一人ひとりの沈黙や涙を含めた語りが消されてしまわないように、つながり、話を聞く、話すことを大事にしていきたいです。

●語ることのむずかしさのある中で、今回自分のことを話してもらう場に参加することが出来てよかったです。個・集団・マイノリティ・マジョリティが相互の理解しあえるようになれば良いと思います。本読みます。

●差別問題を個別単体でとらえるのではなく、

複合差別としてとらえることの大切さと難しさ、また、個別の差別についても共通性はあるものの一人ひとりの生い立ちや経験にしっかりと向き合いながらとらえることの大切さを感じました。

●瀬戸徐さんと坂東さんのお話もちろんですが、司会の熊本さん、そしてフロアからのご意見もそれぞれ立ち止まって考えさせられるものでした。「フェミニズム」を書くというよりは、女たちの書く先に「フェミニズム」という地平が開けるのだと、ふと感じました。

●はじめて知ることたくさんあった内容で、とても学びになりました。

自分を語るには安心できる集団でなければ語れない、言いたくないことほど聞いて欲しい、そんな思いがたくさん発せれる社会になるように、自分なりのフェミニズムを考えていこうとおもいます。

★今回の OYAOYA 川柳★

モヤモヤを・部落で語る・フェミニズム

何度でも、立ち止まって読む 部落フェミニズム(K)
語り出す男性いなくてよかったわ！

ぜんぜん、世の中、変わってへんやん!!(かっちゃん)

語るとき場への信頼楽習塾 (みちこ)

あんたにはわからへんわと川を置く (みちこ)

理路整然こぼれをつなぎ共振へ (みちこ)

書き語り読んで読まれて語り合う (みちこ)

モヤモヤを みんなで話し あたたまる

走り出す 地平の先に フェミニズム



じんけんやんだふる



連絡

毎回ふりかえり用紙をくばります。オンラインの場合はファイルを送ります。後でメールファックスでもいいので送ってください。お願いします。通信に反映させたいと思います。(公開だめなものはオープンにしません)

写真を撮影しますが、OYAOYA通信、八尾市人権協会のホームページなどで使用場合があります。なるべく個人が特定しにくいものをご提供しますが、困るという方は事務局に申しつけてください。